

煎茶及びかぶせ茶用晩生新品種 <sup>りよくほう</sup> ‘みえ緑萌1号’							
【要約】 <u>チャ</u> の新品種 ‘ <u>みえ緑萌1号</u> ’ は ‘やぶきた’ と比較して摘採期で5日程度遅い <u>晩生種</u> である。樹勢は強く、株張りの良好な多収性品種である。荒茶品質は特に色沢、香気に優れている。作期の拡大を図るための <u>品種組合せ栽培</u> に適している。							
三重県農業技術センター茶業センター				連絡先		05958-2-3125	
部会名	茶業	専門	育種	対象	工芸作物	分類	普及

### 【背景・ねらい】

チャ品種の中で ‘やぶきた’ の占める割合が著しく高い。そのため栽培作業や製茶時期の集中、あるいは病害虫の多発や晩霜害の危険性など幾多の問題が指摘されている。また今後経営規模の拡大やそれに伴う効率の高い機械が導入されることになってくると、さらに作期を分散することが重要になってくる。

そこで、現状では晩生優良系統が少ないため、新たな晩生品種を育成する。

### 【成果の内容・特徴】

1. ‘みえ緑萌1号’ は昭和35年に三重県農業試験場茶業分場で ‘やぶきた’ の自然交雑による実生から選抜育成した。

2. 形態特性：樹姿は中間型で、株張りが良く樹勢が強い。初期生育も良好である。

‘やぶきた’ と比較して、成葉は良く似た長楕円形で、葉色も同程度の緑であるが葉の大きさはやや小さく、光沢もやや少ない。新芽は芽数が少なく、葉数はやや多く、百芽重もやや大きい。葉色はやや緑が濃い。(表1)

3. 栽培特性： ‘やぶきた’ と比較して、亀山では萌芽期、摘採期とも5日、四日市では萌芽期が7日、摘採期は6日程度遅い晩生種である。(表2)

また ‘やぶきた’ と比較して、耐寒性は同程度で、炭そ病、輪斑病には強い。

4. 収量：株張りが良好なため、幼木期から収量性が高く、成木園では ‘やぶきた’ より多収である。(表3)

5. 品質：一番茶、二番茶の荒茶では総合点で ‘やぶきた’ より優れ、特に色沢、香気が良好である。(表4)

### 【成果の活用面・留意点】

1. 煎茶用だけでなく、かぶせ茶用としての栽培適性も高いので、かぶせ茶栽培の多い三重県下には特に適する。

2. ‘やぶきた’ より一番茶新芽の硬化は緩慢であるが、晩生の摘採の時期には気温も上昇するので摘採遅れにならないように注意する。

3. 平成8年3月18日種苗法による品種登録。

[具体的データ]

表1 樹姿と樹勢および一番茶の摘芽

品種	樹姿	樹勢	芽数 <sup>1)</sup>	葉数	百芽重
みえ緑萌1号	中間	強	115本	4.1枚	54.4g
やぶきた	やや直立	やや強	125	3.8	52.7

S51~57年の平均(亀山)

1) 芽数: 30cm×30cmの枠摘み

表2 萌芽期と摘採期

品種	萌芽期(月・日)		摘採期(月・日)	
	亀山	四日市	亀山	四日市
みえ緑萌1号	4・18(+5)	4・16(+7)	5・18(+5)	5・19(+6)
やぶきた	4・13	4・9	5・13	5・13

亀山はS51~57年、四日市はS62~H4年の平均

( )内は‘やぶきた’との対比を示し、+は遅い

表3 収量

(kg/10a)

品種	幼木時(一番茶)			成木時煎茶園		成木時かぶせ茶園	
	5年	6年	7年	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶
みえ緑萌1号	117	315	216	407	375	510	577
やぶきた	83	172	142	304	288	476	349

幼木時はS59~61年、成木時(亀山)はS55~57年、かぶせ茶(四日市)はH2~4年の平均

表4 荒茶品質の特性(一番茶)

茶種	品種名	形状	色沢	香気	水色	滋味	総合
煎茶	みえ緑萌1号	18.6	18.1	18.9	18.8	18.9	93.3
	やぶきた	18.3	17.3	18.6	18.5	18.4	91.1
かぶせ茶	みえ緑萌1号	9.6	9.8	9.8	9.4	9.8	48.4
	やぶきた	9.5	9.0	9.0	9.0	9.1	45.6

煎茶はS52~57年、かぶせ茶はH2~4年の平均

煎茶は各項目20点満点の合計100点、かぶせ茶は各項目10点満点の合計50点

[その他]

研究課題名: 茶樹新品種の育成に関する試験

予算区分: 県単

研究期間: 平成7年度(昭和35~平成6年)

研究担当者: 池田敏久、大谷一哉(病虫害防除所)、橘 尚明(資源開発部)

発表論文等: チャ新品種‘みえ緑萌1号’の育成, 三重農技セ研報, 第24号, 平成8年